

いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価（総合）	
学校長	ふりがな	ふくおか てつろう		【教育方針】 校訓「質実剛健」の精神を継承し、全教職員の参画と実践を通して生徒に自信と気づきを与え、自らの手で未来を切り拓ける工業高校生徒の育成を目指す。	【教育目標】 (1) 校訓「質実剛健」の精神を継承し、質朴、誠実、心やからだが強たくまい生徒を育成する。 (2) 「安全第一」を最重視し、工業教育で育つ「ものづくりの心」の上に専門的知識や確かな技術を習得させ、工業発展や産業社会に寄与・貢献できる有為な生徒を育成する。 (3) 人権教育を推進し、個人の価値や尊厳を大切に、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。 (4) 礼儀や秩序、規律を重んじ、勉学や部活動に勤しむ学校文化を創造し、誇りや自信を持った生徒を育成する。 (5) 進路実現（進路保障）をメインテーマとし、ものづくり・資格取得・部活動を活性化することで、生徒を磨く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 合い言葉：「未来を支える工業高校として尖る」 </div>		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	福岡 哲朗							
校長本校在籍年数		3 年							
学校関係者 評価委員会 委員長	ふりがな	よしづみ まさたか							
	氏名	吉積 正孝							

昨年度の成果と課題	◎成果:①生徒が安全第一を意識した学校生活を送れている。 ②資格取得者が増え、ジュニアマイスター認定者が増加した。 ③進学・就職共に生徒の希望進路を達成できた。 ④支援が必要な生徒に対し、きめ細かな対応ができています。 ◎課題:①学校改革に向けて、全職員の共通理解と意識の統一 ②SNSトラブル未然防止に向けた指導 ③早期離職の防止 ④総合型選抜に向けた進学指導 ⑤校外の人権研修への参加者の増加⑥働き方改革に向けた対応
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	可能性及び能力を最大限に伸ばさせる授業への取組み	個に応じた指導の充実を図る。 観点別評価を生かして、授業と評価の一体化をすすめる。					
	授業規律の向上	教室環境の整備および整理・整頓を徹底する。 時間を意識し、自律的な学習を進めることができるよう意識付けを行う。					
生徒指導	規範意識の向上	規定・規約・心得を見直し、時代に合ったものに確立する。 様々な場面で挨拶・身だしなみ・自転車マナー(ヘルメット着用)等の指導を積極的に行う。					
進路指導	確かな進路実現（就職指導）	企業選択の幅を広げるため、求人事業所への積極的な訪問活動を行う。 生徒が主体的に進路を選択できるよう、キャリア教育を体系的に実施することで、職業観や勤労観を育む。					
	確かな進路実現（進学指導）	各学年の発達段階に応じた進学ガイダンスの実施と外部機関と連携することで、進学意識・目的を明確に持たせる。 国公立大学の学校推薦型選抜（工業系）や総合型選抜に対応できるよう、情報収集を行い、指導体制の構築を推進する。					
特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会が中心となり、生徒1人1人の声を積極的に反映させ主体性を持って学校行事等に取り組み活性化を図る。 各部活動生が目標を明確にし、主体的に楽しみながら取組みができるような環境や場面を設定し、部活動の活性化を図る。					
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究の充実のため学科横断的な取組みや外部との連携を推進する。知的財産教育に関して計画的な取組みを実施し、定着を図る。 ものづくり技術を向上させ、競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取り組みを積極的にアピールする。					
	資格取得・各種検定合格率の向上	資格取得プログラムを充実させ、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指し、ジュニアマイスター顕彰の認定者の増加を図る。 資格取得指導を充実させるための、新たな指導体制の確立を図り、教員の資格指導に関する資質・専門性の向上を図る。					
修学支援	進路保障における問題解決に努め、生徒一人一人の自己実現に対する支援を行う	生徒・保護者の要望を聞きつつ、支援が必要な生徒に対してきめ細やかな配慮を行う。 各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実し、周知と理解を広げる。					
	個人の価値や尊厳を大切に、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。	教職員の人権教育研修の充実をはかり、生徒の人権意識高揚に繋がる人権教育を推進する。 屋形原特別支援学校との交流学習を実施する。					

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度,B…目標を上回る達成度,C…目標どおりの達成度,D…目標を下回る達成度,E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。